

学びと景観



『米百俵の精神が根付く長岡のまちの景観は、長岡の人々が学ぶ姿があることで成り立っている。』
その考え方を基に、学ぶことで輝く人たちと調和する各地域の景観をご紹介します！



ものづくりスイッチON!!

長岡造形大学

校庭の色づき始めた美しい木立を抜けて、ほくも私もアーティスト。親子で匠の技術を学び、真剣に「ものづくり」を体験していました。

長岡造形大学は、一般の人が学べる機会も充実しています。

また校内にはたくさんのオブジェも並び、創造のスイッチがオンに。

～長岡造形大学を会場に開催された
長岡デザインフェアにて～



長岡市立科学博物館

毎月1回、科学博物館主催の探鳥会が信濃川河川敷で開催されています。信濃川がもたらす豊かな自然によって多様な生物が生息しており、この日はエソビタキ、セキレイ、オオヨシキリなど20数種類も観察できました。

科学博物館は、野鳥の愛好家を中心となって昭和26年に開館した県内第1号の登録博物館です。その後、昭和53年に柳原町に移転し、平成26年春には「さいわいプラザ（幸町2丁目）」内に移転します。

～科学博物館主催の信濃川探鳥会にて～



移転前の科学博物館

河川敷でバードウォッチング



充実の学び舎

4つの施設で景観に学ぶ様子取材しました。

素晴らしい景観にとっても充実した時間を過ごしていました。

長岡には知れば知るほど興味の湧く、訪れたい学び舎が数多くあります！



火焰土器をテーマとした日本で唯一の博物館

長岡市馬高縄文館

長岡の土地で暮らした古代の人に想いを寄せて、一心不乱にまが玉を磨く…。今のように便利な道具がなかったころは、大変な作業だったでしょうね。必要なのは忍耐力!?

～馬高縄文館の
夏休みワークショップまが玉作りにて～



長岡市トキと自然の学習館



トキのくらしと里山を知る

ゆるやかな丘陵に囲まれた寺泊夏戸で、トキの飼育が行われています。トキ分散飼育センターに隣接する「トキと自然の学習館」では、飼育ケージのライブ映像や記録映像、剥製、パネル展示などを通して、トキの生態やトキの暮らす里山などの自然環境について学ぶことができます。また、学習館が主催する探鳥会や水辺の生き物調査などのイベントでは、地域の自然に親しむ姿が見られます。

～トキと自然の学習館主催の
水辺の生き物調査にて～



稲作に不向きな土地が生んだ特産品



かつては天然ガスが湧き、稲作には不向きな地帯であった中之島大口地区。そこで、稲に代わる作物として先人達が始めたのがれんこん栽培。今では、「中之島ブランド」特産品の横綱です！

ボートを漕ぎだして川下りに挑戦



信濃川なくして長岡は語れません。上川西小学校の子供たちは、自然あふれる信濃川の川下りを通して、自然や歴史、防災など、多くのことを学びます。

暮らしとともに紡がれてきたいりどり



農家の女性の仕事であった、織物の残り糸から作られてきたのが栃尾手まりです。その図案の多くは、菊、もみじなど自然の物から発想されており、豊かな美りへの願いが込められています。山の間に築かれた栃尾の町や、美しい棚田などからも、この土地が自然との結びつきの中で長い歴史を紡いできたことがわかります。道の駅ルート290とちおでは、毎月第2土曜日に手まり作り教室が開催され、市民がその伝統の手業を学んでいます。

動物たちとのふれあいの場、東山ファミリーランド



日ごろ多くの小学生が遠足や授業で訪れています。普段なかなか触れ合う機会のないヤギ、ヒツジ、ポニー、ウサギたちと一緒に遊び、自然に抱かれてお弁当を食べれば、最高においしく豊かな気持ちになれるそうです。近くにアスレチックなどの施設もあります。

小学生が山古志で田舎暮らしを体験



普段は米や野菜を作る農家が、時に自宅にお客さんを泊める「農家民宿」。宿泊体験にやってきた小学生たちは、民宿のおじいちゃん、おばあちゃんに習いながら、枝豆植えやとうもろこしの収穫、錦鯉の稚魚選別にも初挑戦！

泊江市民との交流で、ふるさとの良さ再発見！



そこに住んでいるとわからない、ふるさとの良さ。都会に住む人との交流を通して、気付くことがあります。郷土料理は学び合いの活動で、継承されています。

槌の音ひびく歴史のまち

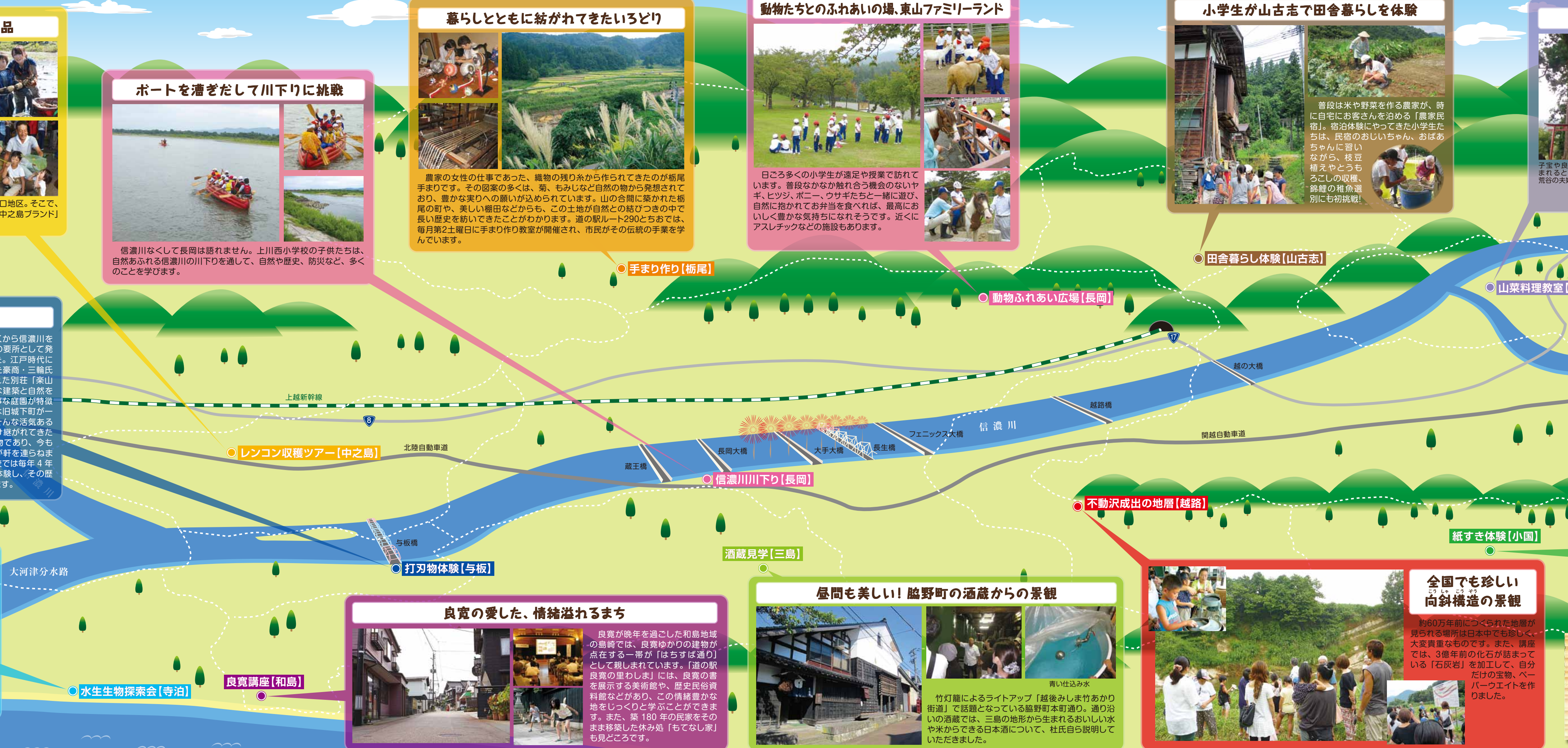


与板は、古くから信濃川を利用した交通の要所として発展してきました。江戸時代に繁栄をきわめた豪商・三輪氏によって造られた別荘「楽山亭」は、簡素な建築と自然を取り込んだ見事な庭園が特徴で、敷地からは旧城下町が一望できます。そんな活気ある歴史の中で受け継がれてきたのが与板打刃物であり、今も多くの鍛冶屋が軒を連ねます。与板小学校では毎年4年生が打刃物を体験し、その歴史を学んでいます。

海に浮かぶ魚の城！海を身近に感じる長岡市寺泊水族博物館



いこうよ、海の大冒険！水生生物探索会「タツノオトシゴ日本海体験」に参加した子供たち。職員の方の解説を聞く前は、真剣そのもの。ふるさとの海に触れて、感じて、理解することができたかな？



良寛の愛した、情緒溢れるまち



良寛が晩年を過ごした和島地域の島崎では、良寛ゆかりの建物が点在する一帯が「はちすば通り」として親しまれています。「道の駅良寛の里わしま」には、良寛の書や展示する美術館や、歴史民俗資料館などがあり、この情緒豊かな地をじっくりと学ぶことができます。また、築180年の民家をそのまま移築した休み処「もてなし家」も見どころです。

昼間も美しい！ 脇野町の酒蔵からの景観



竹灯籠によるライトアップ「越後みしま竹あかり街道」で話題となっている脇野町本町通り。通り沿いの酒蔵では、三島の地形から生まれるおいしい水や米からできる日本酒について、杜氏自ら説明していただきました。

全国でも珍しい向斜構造の景観



約60万年前につくられた地層が見られる場所は日本中でも珍しく、大変貴重なものです。また、講座では、3億年前の化石が詰まっている「石灰岩」を加工して、自分だけの宝物、ペーパーウェイトを作りました。

脈々と受け継がれる和紙の伝統



職人さんの話に中学生たちも興味津々！
古くから農家の副業として行われた雪を使った製法で作られる伝統和紙。青々とした楮（こうぞ）から生まれた、柔らかな白さを持つ和紙は、小国地域の豊かな自然と伝統を受けつづ職人の技の融合が生んだ産物とも言えます。

各地域の景観に学ぶ

守門岳から日本海へと広がる、長岡市の各地域には、美しい景観と、その環境や歴史に裏打ちされた文化と学びの活動があります。そして、地域理解を通して、地域を守り、文化を継承・発展するための人々が育っています。

国がおこるのも、国が栄えるのも、ことごとく、人にある…
— 明日の長岡発展を考える米百俵の精神がここにある —

戊辰戦争に敗れ、焼け野原になった長岡。長岡藩の困窮を知った三根山藩から米百俵が見舞いとして届けられた。藩の大参事・小林虎三郎は、これを売って資金を作り、国漢学校の整備にあてた。国がおこるのも、ほろびるのも、ことごとく人にある。「まちづくりは人づくり」とする米百俵の精神は、今なお長岡の人に脈々と受け継がれている。



毎年10月に行われる米百俵まつり



米百俵の群像(千秋)

三根山藩から贈られた俵

編集後記



遠藤 幸明

学びの場に参加されている方々の笑顔、子供たちの好奇心に充ち溢れた目、そして、生き生きと地域で活動している方々の様子。これこそ、長岡市の誇れる景観だと思いませんか？最後に、取材に協力して下さった皆さん、ありがとうございました。

信濃川、山、雪など、それらに抱かれた地域性の中で文化が発展、伝承され、学んでいる姿を「景観と学び」としてテーマに決めました。走り回って取った写真一枚一枚に、真剣に学び楽しんでいる姿が出てると良いと思います。長岡は、自然から施設から私達にたくさんの、学びを発信している事に気づきました。本紙が子供達、そして多くの人々が新しい景観を求め、学びを求め出かけるきっかけになったらと思います。



小笠原 友子



佐藤 照一

「自然と調和した景観、その中で学び、育ち輝く」をテーマに、3億年前の石を、磨いた自分だけの宝物。初めてポニー、ヤギ、ウサギに直接接触し、瞳を輝かせる。母なる信濃川をボートで川下り、掛け声をあわせての、大冒険。初秋の風音を聞きながら歩く、探鳥会etc…すべてに感動した取材でした。

長岡という地名は、文字通りこの辺の長くなった丘陵の様子から付けられたそうです。県外から来た私は、信濃川の広い河川敷が欠かせない長岡花火をはじめ、恵まれた土地条件をさまざまに活用しているこちらの方々の生活を見てとても驚きました。こんなに土地と人の生活が豊かに結びついている町はなかなかないと感じます。ぜひその価値を認識し、未来へ繋いでいってほしいと思います。



志村 ちあき